

地区医師会担当理事 殿

沖縄県医師会
理事 比嘉



オンライン資格確認導入のための見積取得に関する会員への周知徹底のお願い

今般、日本医師会から標記文書の発出がありましたのでご連絡致します。

現在、厚生労働省より、令和5年4月からのオンライン資格確認原則義務化に向けて、オンライン資格確認に必要な顔認証付きカードリーダーをまだ申請していない全ての医療機関に対して、早期のカードリーダー取得が依頼されているところです。

日本医師会から、まだカードリーダーをお申込みされていない全ての医療機関の会員の先生方に、まずは早期にお使いのレセコンや電子カルテのシステム事業者に、オンライン資格確認導入のための見積作成の依頼があります。

カードリーダーは、5つのメーカーから機種がリリースされており、診療所は1台、病院は3台まで無償提供されますが、機種ごとに形状など、特徴に差があります。

基本的には、どの機種であっても、各社の既存の院内システムと連携できるようになっていますが、システム事業者によっては、より相性のいい業種を推奨することもあるようです。

補助金を受けるためには、令和4年12月末までにカードリーダーをお申込みいただき、令和5年2月末までにシステム事業者と導入作業契約を締結、同3月末までに運用開始いただく必要があります。

オンライン資格確認導入の見積取得の結果、「地域に業者が見つからない」、「見積額が補助金上限額より高い」、「保守料が高い」、「導入に時間がかかる」、「適切なネットワーク回線が見つからない」など、導入に障害がある場合は、日本医師会の相談窓口へ情報をお寄せください。

オンライン資格確認は、院内に設置する「カードリーダーを繋いだパソコン(資格端末)」と社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会が運営するオンライン資格確認等システムをオンライン接続することで、患者の即時の保険資格確認という基本的な機能が利用できます。さらに、資格確認端末と既存の院内システムを連携することで、レセコンに患者の保険資格情報などを取り込むことや、患者同意の元に電子カルテで様々な医療情報を閲覧することができ、システム導入のメリットを最大限享受できるようになります。

オンライン資格確認の概要につきましては、下記の「オンライン資格確認の原則義務化の概要及び医療機関等向けオンライン説明会の開催について」をご参照ください。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただきますとともに、貴管下関係医療機関等への周知方につきご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

- ・カードリーダーの申し込みについて

【オンライン資格確認・医療情報化支援基金関係 医療機関向けポータルサイト】

<https://www.iryohokenjyoho-portalsite.jp/>

- ・オンライン資格相談窓口

【日本医師会ホームページ・メンバーズルーム内オンライン資格確認相談窓口】

<https://www.med.or.jp/japanese/members/info/jirei.html>

【三師会・厚生労働省合同開催 オンライン資格確認の原則義務化に向けた医療機関・薬局向けオンライン説明会（録画映像と資料）】

視聴URL：<https://www.youtube.com/watch?v=1H3mhnEd-U8>

資料URL：<https://www.iryohokenjyoho-portalsite.jp/about/docs/onshigimuka.pdf>

- オンライン資格確認導入のための見積取得に関する会員への周知徹底のお願い
(令和4年8月30日(日医発第1014号(情シ)(保険)))

※関係文書は文書管理システムへ掲載致します。

沖縄県医師会事務局業務2課：宮城、平良

TEL：098-888-0087

FAX：098-888-0089

g2@okinawa.med.or.jp



都道府県医師会

情報システム担当理事 殿

社会保険担当理事 殿

日本医師会 常任理事

長島 公之

(公印省略)

オンライン資格確認導入のための見積取得に関する会員への周知徹底のお願い

平素より本会会務の運営に特段のご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

令和 5 年 4 月からのオンライン資格確認原則義務化に向けて、オンライン資格確認に必要な顔認証付きカードリーダー（以下、カードリーダー）をまだ申込んでいないすべての医療機関に対して、現在、厚生労働省から、早期のカードリーダー取得が依頼されているところです（現在紙レセプトでの請求が認められている保険医療機関は、オンライン資格確認導入の原則義務化の例外となります）。

つきましては、まだカードリーダーをお申込みされていないすべての医療機関の会員の先生方に、まずは早期に、お使いのレセコンや電子カルテ（以下、既存の院内システム）のシステム事業者に、オンライン資格確認導入のための見積作成を依頼いただきたいと考えております。

各医療機関がオンライン資格確認導入のための見積を取得し、自らの医療機関の状況を把握いただくとともに、その際に判明した問題点を日本医師会の相談窓口にお寄せいただくことが、オンライン資格確認の導入促進、課題解決による医療機関の負担軽減、「やむを得ない場合」の対応要望などのために、大いに役立ちます。是非、本発信文書の会員への周知徹底にご協力お願い申し上げます。

オンライン資格確認は、院内に設置する「カードリーダーを繋いだパソコン（資格確認端末）」と、社会保険診療報酬支払基金（以下、支払基金）・国民健康保険中央会が運営するオンライン資格確認等システムをオンライン接続することで、患者の即時の保険資格確認という基本的な機能が利用できます。さらに、資格確認端末と既存の院内システムを連携することで、レセコンに患者の保険資格情報などを取り込むことや、患者同意の元に電子カルテで様々な医療情報を閲覧することができるようになり、システム導入のメリットを最大限享受できるようになります。

既存の院内システムとの連携については、それらの導入・保守を行っているシステム事業者

確認端末の手配や回線との接続設定なども含め、オンライン資格確認対応を一括してその事業者が発注いただくことになるケースが多いかと存じます。

カードリーダーは、5つのメーカーから機種がリリースされており、診療所は1台、病院は3台まで無償提供されますが、機種ごとに形状など、特徴に差があります。基本的には、どの機種であっても、各社の既存の院内システムと連携できるようになっていますが、システム事業者によっては、より相性のいい機種を推奨することもあるようです。

これらを踏まえ、見積りを依頼される際には、特に以下の点についてご確認をお願いいたします。

- ・事業者としてオンライン資格確認導入作業に対応可能か（不可能な場合、対応可能な他の業者を紹介できるか）
- ・推奨するカードリーダーの機種があるかどうか（特にない場合は、医療機関側の好みで機種を選定ください）
- ・導入費用・保守費用の金額
- ・事前も含め、必要な作業の内容（医療機関側、業者側）
- ・運用開始までにかかる期間

システム事業者への確認により、カードリーダーの機種が選定できましたら、是非早期に、医療機関等向けポータルサイトから、カードリーダーの申込をいただきたく、お願いいたします。

なお、ポータルサイトのアカウントが未登録の医療機関に対しては、支払基金から8月10日付けで「オンライン資格確認 医療機関等向けポータルサイトへのアカウント登録のご案内について」が郵送されておりますので、そちらをご参照の上、ポータルサイトのアカウント登録とカードリーダー申込をお願いいたします。

【オンライン資格確認・医療情報化支援基金関係 医療機関等向けポータルサイト】

<https://www.iryohokenjyoho-portalsite.jp/>

補助金を受けるためには、令和4年12月末までにカードリーダーをお申し込みいただき、令和5年2月末までにシステム事業者と導入作業の契約を締結、同3月末までに運用開始いただく必要があります。

加えて、今回の原則義務化を受け、配送期間及び院内システム改修に必要な時間を踏まえ、従来、受注生産されてきたカードリーダーが事前生産されることとなり、ご希望の機種を入手いただくために、補助金要件よりも早いカードリーダー申込締切が提示されているところです（別添1参照）。1機種は10月30日、4機種は11月30日が申込締切とされていますが、在庫がある限りは、締切以降でも申込可能とのことです。

見積取得の結果、「地域に業者が見つからない」、「見積額が補助金上限額より高い」、「保守料が高い」、「導入に時間がかかる」、「適切なネットワーク回線が見つからない」など、導入に障害がある場合は、日本医師会の相談窓口へ情報をお寄せください。

いただいた情報を厚生労働省やオンライン資格確認推進協議会（日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会にて設立）と共有し、問題解決のための情報提供や業者への働きかけ等の支援を行ってまいります。

また、収集した問題点から、医療機関には責任のない「やむを得ない場合」をまとめ、中医協附帯意見の「令和4年末頃の導入の状況について点検を行い、地域医療に支障を生じる等、やむを得ない場合の必要な対応について、その期限も含め、検討を行う」際の根拠として活用させていただきます。

【日本医師会ホームページ・メンバーズルーム内オンライン資格確認相談窓口】

<https://www.med.or.jp/japanese/members/info/jirei.html>

オンライン資格確認の概要（原則義務化の内容、導入補助金、診療報酬上の加算など）につきましては、添付の令和4年8月18日付発信文書「オンライン資格確認の原則義務化の概要及び医療機関等向けオンライン説明会の開催について」をご参照ください。

なお、同文書でご案内した「医療機関等向けオンライン説明会」の録画映像がYouTubeで配信中です。オンライン資格確認の概要や、カードリーダーの各機種の特徴などもご紹介されていますので、是非ご視聴ください。

三師会・厚生労働省合同開催 オンライン資格確認の原則義務化に向けた医療機関・薬局向けオンライン説明会（録画映像と資料）

視聴 URL <https://youtu.be/1H3mhnEd-U8>

資料 URL <https://www.iryohokenjyoho-portalsite.jp/about/docs/onshigimuka.pdf>

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただくと共に、貴会管下の郡市区等医師会ならびに会員への周知方につき、是非ともご協力を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

【別添資料】

- ・令和4年8月18日付日医発第928号（情シ）（保険）「オンライン資格確認の原則義務化の概要及び医療機関等向けオンライン説明会の開催について」
- ・別添1：顔認証付きカードリーダーとシステム事業者への申込みについて
- ・別添2：製品比較表（2022/7/7 現在）

<https://www.iryohokenjyoho-portalsite.jp/application/post-6.html> に掲載）

都道府県医師会
情報システム担当理事 殿
社会保険担当理事 殿

日本医師会 常任理事
長島 公之
(公印省略)

オンライン資格確認の原則義務化の概要及び
医療機関等向けオンライン説明会の開催について

平素より本会会務の運営に特段のご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

オンライン資格確認について、保険医療機関・薬局に、令和 5 年 4 月から導入を原則として義務付けることに関し、令和 4 年 8 月 10 日、中央社会保険医療協議会（以下、中医協）において、例外を含む原則義務化の内容や、オンライン資格確認導入医療機関における診療報酬上の加算の内容についての答申が取りまとめられました。また、同日の中医協では、医療情報化支援基金による導入補助金の拡充（病院の補助上限額の増額、診療所の補助上限額までの全額補助の復活）も公表されました。

日本医師会としては、オンライン資格確認について、「将来的に全ての医療機関にオンライン資格確認が導入されることで、全国の医療機関が安全に繋がる医療専用のネットワークが構築されることとなり、このネットワーク基盤の活用が、国民・患者への安全・安心で良質な医療提供に繋がる」と考えていることから、その推進、普及に協力する立場をとっております。今後、日本医師会として、国並びに各関係者と協力し、会員の先生方の導入を支援してまいります。また、今後、導入に関する情報を、随時、文書、日医ニュース、ホームページ、説明動画、説明会など様々な媒体で提供していくとともに、導入に関する相談窓口を拡充いたします。

まずは、本文書にて、オンライン資格確認原則義務化の概要についてご説明すると共に、8 月 24 日にオンライン資格確認推進協議会（日本医師会・日本歯科医師会・日本薬剤師会）と厚生労働省が合同で開催するオンライン説明会についてご案内申し上げます。

1. オンライン資格確認原則義務化の経過について

「経済財政運営と改革の基本方針 2022」（令和 4 年 6 月 7 日閣議決定）において、「オンライン資格確認について、保険医療機関・薬局に、2023 年 4 月から導入を原則として義務付ける」との政府方針が示されました。これに基づき、中医協に対して、令和 4 年 8 月 3 日、「医療 DX の基盤となるオンライン資格確認の導入の原則義務付

け及びこれに伴う診療報酬上の加算の取扱い」について諮問がなされ、同8月10日に、例外を含む原則義務化の内容や、オンライン資格確認導入医療機関における診療報酬上の加算の内容についての答申が取りまとめられました（令和4年8月10日付日医発第912号（保険）「中医協答申書について（令和4年度診療報酬改定（看護の処遇改善）並びに医療DXの基盤となるオンライン資格確認の導入の原則義務付け及びこれに伴う診療報酬上の加算の取扱いについて）」）。また、同日の中医協では、医療情報化支援基金による導入補助金の拡充（病院の補助上限額の増額、診療所の補助上限額までの全額補助の復活）も公表されました。

2. オンライン資格確認原則義務化の概要について

【原則義務化の内容】

保険医療機関及び保険医療養担当規則（昭和32年厚生省令第15号）等が改正され、令和5年4月1日以降、保険医療機関は、患者の受給資格を確認する際に、患者からマイナンバーカードを健康保険証として利用する（＝「マイナ保険証」による）オンライン資格確認による確認を求められた場合、オンライン資格確認によって受給資格の確認を行わなければならない、そのために必要な体制を整備しなければならないこととなります。

●義務化の例外

現在紙レセプトでの請求が認められている保険医療機関は、オンライン資格確認導入の原則義務化の例外となります。

●導入の手続きのお願い

例外となる医療機関以外の医療機関におかれましては、コロナ禍への対応等、大変な状況の中、誠に恐縮ではございますが、来年4月の原則義務化に向けて、オンライン資格確認導入の手続きを進めていただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

●やむを得ない場合の対応

世界的な半導体不足による機材調達遅れや、システム事業者側の対応力の不足により発注しても導入が進まない等、導入における課題が多く存在していることも承知しており、オンライン資格確認の導入が期限までに間に合わないやむを得ない事情もあると考えております。そのため、日本医師会をはじめとする診療側委員の強い要望で、中医協答申の附帯意見において、「令和4年末頃の導入の状況について点検を行い、地域医療に支障を生じる等、やむを得ない場合の必要な対応について、その期限も含め、検討を行う」旨が記載されております。

また、中医協において、「令和5年4月1日にオンライン資格確認に対応できていない場合、即、療担規則違反となって保険医療機関の指定取り消しとなってしまうのか」という日本医師会委員の質問に対して、厚労省事務局からは、「療担規則

は、保険医療機関等の責務を規定するものであり、遵守されていない場合には、まずは、地方厚生局による懇切丁寧な指導などが行われることとなるが、具体的には個別事案ごとに適宜判断することとなる」との回答がなされております。

●日本医師会 相談窓口の拡充

今回の原則義務化を契機として地域医療提供体制に支障を来たす事態が生じないように、日本医師会としても各関係者と協力し、引き続き課題解決に努めていく所存です。

これらの課題への対応について、厚労省は中医協において、「コールセンターを設置し、個別の問い合わせに対応している」、「これまでに受けた問い合わせを踏まえ、順次 Q&A を更新し、わかりやすい配付資料等も行っていく」、「システム事業者にも、システム事業者導入促進協議会の活動等を通じ、丁寧な対応を依頼していく」、「申し込みから導入開始まで、ステージごとの課題に適切に対応していく」との見解を示しております。

そこで、現場の課題をより広く収集するために、日本医師会では、従来から設置している相談窓口を拡充いたします。導入についてお困りのこと（例えば、地域に業者が見つからない、見積額が補助金上限額より高い、保守料が高い、導入に時間がかかる、適切なネットワーク回線が見つからないなど）ございましたら、下記相談窓口には是非情報をお寄せください。いただいた情報を厚生労働省やオンライン資格確認推進協議会（日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会にて設立）と共有し、問題解決のための情報提供や業者への働きかけ等の支援を行ってまいります。

【日本医師会ホームページ・メンバーズルーム内オンライン資格確認相談窓口】

<https://www.med.or.jp/japanese/members/info/jirei.html>



【医療情報化支援基金によるオンライン資格確認導入補助の見直し】

昨年来、日本医師会として、医療情報化支援基金によるオンライン資格確認導入補助の拡充を強く求めてきた結果、この度、以下の通り見直しが行われました（別紙1）。

<診療所>

見直し後：基準とする事業額 42.9 万円を上限に実費補助
（顔認証付きカードリーダー1 台無償提供）

<病院>

見直し後：基準とする事業額を 2 倍に増額
（顔認証付きカードリーダー3 台まで無償提供）

- 1台の場合：事業額 420.2 万円を上限に 1/2 を補助（補助上限 210.1 万円）
- 2台の場合：事業額 400.4 万円を上限に 1/2 を補助（補助上限 200.2 万円）
- 3台の場合：事業額 380.6 万円を上限に 1/2 を補助（補助上限 190.3 万円）

なお、本補助金を受けるには、下記の期間内にそれぞれの対応を進めていただく必要があります。

- (1) 令和 4 年 6 月 7 日～同 12 月末までに顔認証付きカードリーダーを申し込む
- (2) 令和 5 年 2 月末までにシステム事業者と導入に関する契約を締結する
- (3) 令和 5 年 3 月末までに事業を完了させ、オンライン資格確認をスタートさせる
- (4) 令和 5 年 6 月末までに交付申請を行う

また、令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 6 月 6 日の期間にカードリーダーを申込済で、令和 4 年 6 月 7 日～令和 5 年 1 月末までにオンライン資格確認の運用を開始した医療機関に対しては、補助金受給済の医療機関を除き、今回拡充される補助内容との差額に相当する別途の補助が実施されます。この別途の補助につきましては、詳細が決まり次第、改めてご連絡いたします。

【診療報酬上の加算の取り扱い】

今回のオンライン資格確認原則義務化を踏まえ、令和 4 年 4 月に新設された「電子的保健医療情報活用加算」は令和 4 年 9 月 30 日までの取扱いとし、令和 4 年 10 月 1 日より新たに、「医療情報・システム基盤整備体制充実加算」が新設されることとなりました（別紙 2）。

新設される加算は、初診時等に患者の薬剤情報や特定健診情報等の診療情報を活用して診療等を実施し質の高い医療を提供する体制及び電子資格確認等による患者情報の取得の効率化を考慮した評価となります。点数は、

- (1) 施設基準を満たす医療機関で初診を行った場合：4 点
（＝従来の保険証を持参した患者の場合等）
- (2) (1)であって、オンライン資格確認等により情報を取得等した場合：2 点
（＝マイナ保険証を持参し、医療情報等の提供に同意した患者の場合や、診療情報提供書等を通じて、医療情報等を取得した患者の場合等）

となっており、月に 1 回、初診時にいずれかの点数を加算することができます。

算定するための施設基準は以下の通りです。

- (1) レセプトのオンライン請求を行っていること。
- (2) オンライン資格確認を行う体制を有していること。なお、オンライン資格確認の導入に際しては、医療機関等向けポータルサイトにおいて、運用開始日の登録を行うこと。
- (3) 次に掲げる事項について、当該保険医療機関の見やすい場所及びホームページ等に掲示していること。
 - ア. オンライン資格確認を行う体制を有していること。

イ、当該保険医療機関を受診した患者に対し、受診歴、薬剤情報、特定健診情報
その他必要な診療情報を取得・活用*して診療を行うこと。

*情報の取得・活用の具体的な方法として、初診時に患者の診療情報を取得する際
には、別途示される問診票（標準的な問診項目が含まれた問診票）又はこれに準
じた問診票を用いることが求められる予定。

3. 医療機関等向けオンライン説明会について

今回のオンライン資格確認原則義務化に関する様々な決定を受けて、令和4年8月
24日、三師会（日本医師会・日本歯科医師会・日本薬剤師会）が設置したオンライン
資格確認推進協議会と厚生労働省の合同で、医療機関等向けオンライン説明会を開催
させていただくことになりました。

三師会・厚労省合同 医療機関等向けオンライン説明会

令和4年8月24日（水）18:30～20:00

（YouTube Live による配信）

参加 URL <https://youtu.be/1H3mhnEd-U8>



チャットによる質疑応答も交え、顔認証付きカードリーダーの各機種の特徴等も含め、分かりやすく現状をお知らせ・ご紹介すると共に、医療機関・薬局にオンライン資格確認の導入をお願いさせていただく内容となりますので、特に都道府県医師会、郡市区等医師会の社会保険担当理事、情報システム担当理事の先生方におかれましては、是非ご視聴いただきたく、お願い申し上げます。

なお、当日の様様につきましては、後日録画映像の配信も行われる予定です。

また、上記オンライン説明会とは別に、日本医師会として、9月中に都道府県医師会社会保険・情報システム担当理事連絡協議会を開催する予定です。開催が決定次第、改めて開催通知にてご連絡いたします。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただくと共に、貴会管下の郡市区等医師会ならびに会員への周知方につき、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

【別添資料】

- ・別紙1：医療情報化支援基金による医療機関・薬局への補助の見直し（R.4.8.10 中医協総-8-3）
- ・別紙2：医療DXを推進し、医療機関・薬局において診療情報を取得・活用し質の高い医療を実施する体制の評価（R.4.8.10 中医協総-12-2）
- ・別紙3：三師会・厚労省合同説明会の開催について

別紙 1 医療情報化支援基金による医療機関・薬局への補助の見直し

○ オンライン資格確認の導入を原則として義務化することに伴い、閣議決定を行った**令和4年6月7日から令和4年12月末までに顔認証付きカードリーダーを申し込むとともに、令和5年2月末までにシステム事業者との契約を結んだ医療機関・薬局について**（※）、補助内容の見直しを行う。（従前どおり、令和5年3月末までに事業完了、同年6月末までに交付申請が必要）

※ 上記申込期限は最も遅いケースであり、**医療機関等はより早期の申込や契約が必要**。

- ・ 病院：過半数以上の病院が事業額の上限を超過していることを踏まえ、現行の補助上限額を見直し（補助率は1/2を維持）
- ・ 診療所・薬局（大型チェーン薬局以外）：経営規模を踏まえ、実費補助とする。
- ・ 大型チェーン薬局：補助基準内にほぼ収まっていることから、現状を維持。

顔認証付きカードリーダーの申込時期	病院			大型チェーン薬局 (グループで処方箋の受付が月4万回以上の薬局)	診療所 薬局 (大型チェーン薬局以外)
	3台まで無償提供	2台導入する場合	1台導入する場合	3台導入する場合	1台無償提供
① 令和3年4月～令和4年6月6日	100.1万円を上限に補助 ※事業額の200.2万円を上限に、その 1/2 を補助	105万円を上限に補助 ※事業額の210.1万円を上限に、その 1/2 を補助	95.1万円を上限に補助 ※事業額の190.3万円を上限に、その 1/2 を補助	21.4万円を上限に補助 ※事業額の42.9万円を上限に、その 1/2 を補助	32.1万円を上限に補助 ※事業額の42.9万円を上限に、その 3/4 を補助
② 令和4年6月7日～	200.2万円 を上限に補助 ※事業額の400.4万円を上限に、その 1/2 を補助	210.1万円 を上限に補助 ※事業額の420.2万円を上限に、その 1/2 を補助	190.3万円 を上限に補助 ※事業額の380.6万円を上限に、その 1/2 を補助	同上	基準とする事業額42.9万円を上限に 実費補助

その他の費用の補助内容

※ その他の費用：(1)マイナンバーカードの読取・資格確認等のソフトウェア・機器の導入、(2)ネットワーク環境の整備、(3)レセプトコンピュータ、電子カルテシステム等の既存システムの改修等

※ 消費税分（10%）も補助対象であり、上記の上限額は、消費税分を含む費用額

※ 令和3年3月末までに顔認証付きカードリーダーを申し込んだ医療機関・薬局については上限額まで実費を補助する特例を実施

※ ①の期間にカードリーダーを申し込んだ施設において、オンライン資格確認の運用が進んでいない状況に鑑み、迅速な運用を促進する観点から、令和4年6月7日から令和5年1月末までに運用開始した施設については、別途の補助を実施する（補助金交付済の施設を除く。別途の補助の内容は、①と②の差額とする）。

医療DXを推進し、医療機関・薬局において診療情報を取得・活用し質の高い医療を実施する体制の評価

- ▶ 令和5年度より、保険医療機関・薬局に、医療DXの基盤となるオンライン資格確認等システムの導入が原則義務化されることを踏まえ、当該システムを通じて患者情報の活用に係る現行の評価を廃止。
- ▶ その上で、医療DXの推進により、国民が医療情報の利活用による恩恵を享受することを推進する観点から、初診時等における情報の取得・活用体制の充実及び情報の取得の効率性を考慮した評価を新設。

オンライン資格確認等システムを通じた情報活用に係る現行の評価の廃止

○ 電子的保健医療情報活用加算

- 【医科・歯科】 マイナ保険証を利用する場合 7点 (初診) 4点 (再診) / 利用しない場合 3点 (初診)
- 【調剤】 マイナ保険証を利用する場合 3点 (月1回) / 利用しない場合 1点 (3月に1回)



廃止

初診時等における診療情報取得・活用体制の充実に係る評価の新設 (令和4年10月～)

(新) 医療情報・システム基盤整備体制充実加算

- 1 施設基準を満たす医療機関で初診を行った場合 4点
 - 2 1 であって、オンライン資格確認等により情報を取得等した場合 2点
- ※調剤は、1 3点 (6月に1回)、2 1点 (6月に1回)

医療機関・薬局に求められること

【施設基準】

- 次の事項を当該医療機関・薬局の見やすい場所及びホームページ等に掲示していること (対象はオンライン請求を行っている医療機関・薬局)。
- ① オンライン資格確認を行う体制を有していること。(厚労省ポータルサイトに運用開始日の登録を行うこと)
- ② 患者に対して、薬剤情報、特定健診情報その他必要な情報を取得・活用 (※) して診療等を行うこと。

【算定要件】

- 上記の体制を有していることについて、掲示するとともに、必要に応じて患者に対して説明すること。(留意事項通知)

(※) この情報の取得・活用の具体的な方法として、上記にあわせて、初診時の問診票の標準的項目を新たに定めること(薬局については、文書や聞き取りにより確認する項目を定めること)とともに、当該情報等を薬剤服用歴に記録することを求める予定)

診療情報を取得・活用する効果 (例)

医療機関

- ✓ 薬剤情報により、重複投薬を適切に避けられるほか、投薬内容から患者の病態を把握できる。
- ✓ 特定健診結果を診療上の判断や薬の選択等に生かすことができる。

問診票の標準的項目を新たに定める (イメージ)

問診票 (初診時)

- 今日の症状
- 他の医療機関の受診歴
- 過去の病気
- 処方されている薬
- 特定健診の受診歴
- アレルギーの有無
- 妊娠・授乳の有無
- ……

※当院は診療情報を取得・活用することにより、質の高い医療提供に努めています。

薬局

- ✓ 薬剤情報により、重複投薬や相互作用の確認が可能になる。
- ✓ 特定健診の検査値を踏まえた処方内容の確認や服薬指導が可能になる。

今後、閲覧可能な情報が増えること等によって
正確な情報をより効率的に取得・活用可能となり、
更なる医療の質の向上を実現

- 8月10日の中医協で答申・公表された内容を踏まえ、医療機関・薬局等の医療関係者へ周知するため、日本医師会・日本歯科医師会・日本薬剤師会により設置された「オンライン資格確認推進協議会」と厚労省合同での説明会（ライブ配信）を8月24日（水）18:30からオンラインで開催予定。



日程： 令和4年8月24日（水）

時間： 18：30～（75分程度）

URL： <https://youtu.be/1H3mhnEd-U8>

【内容】

8/30日医注記：現在もこのURLで録画映像をご視聴いただけます

- オンライン資格確認の趣旨について（安心・安全で質の高い医療を提供していく医療DXの基盤）
- 8月10日の中医協で答申・公表された内容について
 - ・ 原則義務化の内容について
 - ・ 医療機関・薬局向け補助金の拡充について
 - ・ 診療報酬上の加算の取扱いの見直しについて
- 具体的な申込手続きなど
- 顔認証付きカードリーダーのデモ
- 質疑応答

【参考】「オンライン資格確認推進協議会」について

令和4年2月10日
三師会連名によるプレスリリース

「オンライン資格確認推進協議会」の設置について

公益社団法人日本医師会
公益社団法人日本歯科医師会
公益社団法人日本薬剤師会

令和3年10月20日から本格運用が始まっているオンライン資格確認については、導入に必要となる「顔認証付きカードリーダー」の申込数が、全医療機関・薬局の約6割となっているなかで、様々な課題があるため、実際に運用を開始している施設は約1割となっている。

三師会としては、医療機関間の情報共有を進め、安心・安全で質の高い医療を提供していくデータヘルスの基盤として、オンライン資格確認の導入を推進していく必要があると考えており、これまでも様々な取組を行ってきた。

令和5年3月末までに、おおむね全ての医療機関・薬局での導入を目指すという政府目標が掲げられている。こうした中で、関係者と連携して課題を解決し、導入を加速化させていくため、医療関係団体により「オンライン資格確認推進協議会」を立ち上げ、下記の取組を行っていく。

推進協議会の構成

日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会
(オプザーバー)

厚生労働省、社会保険診療報酬支払基金・国民健康保険中央会、保健医療福祉情報システム工業会 (JAHIS)

推進協議会における取組

まずは顔認証付きカードリーダー申込済のすべての施設において速やかに導入されるよう、システム事業者への発注が終了している状態を目指すとともに、未申込施設においても令和5年3月末に向けて導入が進むよう、厚生労働省やオンライン資格確認の実施機関、システム事業者に必要な要請等も行いながら、これらの主体と連携して、以下の取組を行う。

- ・各団体の取組状況の共有
- ・各施設、各地域等における好事例の共有
- ・現場の状況を踏まえたシステム事業者からのヒアリング及び意見交換
- ・行政の取組状況の検証
- ・導入の加速化に向けた課題の共有と対応策の検討
- ・三師会が連携した合同説明会の開催

顔認証付きカードリーダーとシステム事業者への申込みについて

- 原則義務化に向けて、申し込み後できるだけ速やかにお届けできるよう、顔認証付きカードリーダーを事前生産します。
- 全体として必要な台数を確保しており、各メーカーの事前生産台数は以下のとおりです。
ご希望のメーカーのカードリーダーを手でできるよう、速やかに申込をお願いします。
(各社の出荷可能台数は、医療機関等向けポータルサイトに掲載し、適宜更新します)
- 院内システムの改修を行うシステム事業者についても、今後、申込期限を医療機関向けポータルサイトに公開予定です。

	富士通Japan 株式会社	11,948	2022/11/30		パナソニック コネクト 株式会社	31,500	2022/11/30		株式会社 アルメックス	16,000	2022/11/30		キヤノンマーケティング ジャパン株式会社	20,000	2022/11/30		アトラス情報サービス 株式会社	1,000	2022/10/30
合計		11,948	2022/11/30			31,500	2022/11/30			16,000	2022/11/30	20,000	2022/11/30	1,000	2022/10/30				
申込締切																			

日医注記：1機種は10月30日、4機種は11月30日が申込締切とされていますが、在庫がある限りは、締切以降でも申込可能とのことでした。

富士通Japan 株式会社 株式会社 富士通マーケティング	パナソニック コネクト株式会社 株式会社 パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社	株式会社 アルメックス	キヤノンマーケティングジャパン 株式会社	アトラス情報サービス株式会社
----------------------------------	---	-------------	----------------------	----------------

製品名/製品型番

Caera (PD-CA01)	顔認証付きカードリーダー (XC-STFR2JMN)	Sma-pa マイナタッチ (CPS-100W)	Hi-CARA (UFT-S190S (NU))	EXC-9000
-----------------	----------------------------	--------------------------	--------------------------	----------

保証関連

<p>新品より5年間の先出しセンバック修理を標準同梱</p> <p>【修理期間】 サポートセンターへご連絡後、翌営業日出荷目標 【保守対象期間について、以下の通り】 ・2021年3月31日迄納品分：納品日～2021年3月31日+5年間 ・2021年4月1日以降納品分：納品日から5年間</p> <p>【留意事項】 お客様の取扱い（落下、水損、故意の破損等）においては修理対応外</p>	<p>製品販売から5年間当該機器及び機能の無償保証（センバック無償修理）</p> <p>ただし、以下の場合は原則として有料修理対応 ・使用上の誤り及び不当な改造 ・お買い上げ後の移送・輸送・落下などによる故障及び損傷 ・天災地変及び公害、損害、ガス外、異常電圧、指定外の使用電源などによる故障及び損傷 ・お客様のご使用環境や対象機器の維持・管理方法に起因した故障及び損傷 ・消耗または摩耗した部品交換の場合</p>	<p>ハードウェア保守・製品販売から18ヶ月間当該機器及びその機能の保証無償 ※本格運用までにお申し込みの場合は、本格運用開始日(2021年10月予定)から18ヶ月間無償保証対応</p> <p>ただし、無償保証期間終了後は別途有償（月額2,500円）での対応、センバック（新品同等品交換対応）</p> <p>※利用者側の取扱いによる故障以外はフルメンテナンステラ対応</p>	<p>製品出荷月から5年間の無償保証 先出しセンバックにて交換対応 ※本格運用までにお申し込みの場合は、本格運用開始日(2021年10月予定)から5年間無償保証対応</p> <p>ただし以下は保証期間中でも、有償対応となります。 ・不注意、誤用による故障および損傷 ・当社以外の修理、改造による故障および損傷 ・真正以外の部品等の使用に起因した本体の損傷、故障および障害 ・火災、水害、公害、天災地変や異常電圧による故障および損傷 ・製品仕様様の耐性を超えた水などのかぶり、落下、衝撃による本体の損傷、故障 ・本製品が想定する用途、用途等を超える使用に起因すると考えられる故障および損傷 ・接続している他の機器または本製品と一緒にご使用される通信回線およびアプリケーションに起因した故障</p>	<p>新品月から5年間、先出しセンバック方式で当該機器及び機能を無償保証</p> <p>ただし以下は保証期間中でも、有償対応となります。 ・ご使用上の誤り、取り付けの誤り、当社以外が実施した修理や改造、誤接続または指定外の電源使用による故障や損傷の場合 ・火災・地震・風水害・落雷などの天災地変およびその他の不可抗力に起因する故障や損傷の場合 ・当社が指定している電源ケーブルやACアダプタ以外を使用した場合 ・お買い上げ後の輸送や移動、落下等の衝撃による故障や損傷の場合 ・本製品以外の機器が影響した故障や損傷の場合 ・当社が指定する環境以外で使用した場合、または当社が指定するもの以外付属品を使用した場合 ・取扱説明書に沿った使用またはメンテナンスを行わなかったことによる故障や損傷の場合 ・タッチパネルおよびタッチパネル制御部の故障または破損の場合 ・お客様の使用環境や対象機器の維持・管理方法に起因した故障及び損傷等</p>
--	---	---	---	--

特長

<ul style="list-style-type: none"> ・照明的影響を受けづらい構造（洞窟構造で、直射日光や照明的差し込みによるカードの読取りエラーを防止） ・画面表示とブザーでマイナンバーカードの取り忘れ通知 ・顔検出マスクをしていても、顔認証可能 ※マスク着用時の状態、マスクの色柄や形状、マイナンバーカードの写真が不鮮明などの場合、顔認証されない可能性あり ・1台のPCで複数台接続が可能（別途有償ライセンス（25,000円/台）：下記掲載の製品情報ページにて販売） 	<ul style="list-style-type: none"> ・手袋でも操作可能なタッチパネル ・カード忘れ、表裏置き間違え通知機能 ・高品位の人物撮影をサポートするカメラ逆光補正機能 ・眼鏡/マスク着用時でも顔認証可能 ※写真が不鮮明、マスクを深く着用等、顔の特徴が十分に取れない場合を除く 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の公費医療券・各種証明書等（「こども医療費受給者証」「ひとり親家庭等医療証」「心身障害者医療費受給資格証」）の読み取り。 【順次拡張予定】】OCR読取機能搭載 ※無償提供 ・抗菌仕様のタッチスクリーン ・音声ガイドダンス可能 ・カード取り忘れ注意ブザーあり ・マスク着用時でも顔認証可 ※条件による ・暗証番号入力画面においてランダム表示機能搭載 ・1台のPCで最大4台まで接続可能 ・受付内設置用ミラーリングモニター（別途有償オプション） 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽量でコンパクトなサイズ ・取り外し可能による多様な操作性 ・カード取り忘れ防止、のぞき見防止による安心・安全性の確保 ・1台の資格確認端末に最大4台まで接続可能（ライセンス不要） ・状態表示LEDで利用者の方も受付スタッフの方も状況確認可能 ・音声ガイドダンスあり ・マスク、メガネ着用時も顔認証可能 ※設置環境、マイナンバー券面状態、写真状態によって、認識されない可能性あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・見やすい角度に調整可能な10インチ相当の大画面 ・画面が縦/横に回転、ご利用者や設置環境にやさしい柔軟設計 ・傾斜角度や仕様にこだわった、カードを入れやすく、取り出しやすい設計 ・日本語のほか、英語、韓国語、中国語に対応 ・マスク、眼鏡着用時も顔認証可能 ※マスクの着用状態やマスクの色や柄、形状、マイナンバーカードの写真が不鮮明などの場合、顔認証されない可能性があります。
---	--	---	--	--

寸法

170mm x 230mm x 200mm (WxDxH)	148mm x 145mm x 276mm (WxDxH) (突起物、付属品除く)	354mm x 170mm x 139mm (WxDxH)	98mm x 180mm x 242mm (WxDxH)	画面が横向き時:268mm x 189mm x 356mm 画面が縦向き時:183mm x 189mm x 397mm (WxDxH)
-------------------------------	--	-------------------------------	------------------------------	--

設置環境要件

<p>【設置スペース】 W170mm x D260mm x H200mm以上が確保できること ※背景撮影を妨げる遮蔽物がないこと</p> <p>【照明環境】 顔面照度が150ルクスよりサポート</p>	<p>【設置スペース】 W148mm x D145mm x H276mm以上が確保できること</p> <p>【照明環境】 顔面照度が100ルクス以上であること</p>	<p>【設置スペース】 W354mm x D170mm x H139mm以上が確保できること</p> <p>【照明環境】 カードリーダー部分に直射日光があたらないこと</p>	<p>【設置スペース】 W98mm x D180mm x H242mm以上が確保できること</p> <p>【照明環境】 カードリーダー部に直射日光があたらないこと</p>	<p>【設置スペース】 画面が横向き時:W268mm x D189mm x H356mm以上 画面が縦向き時:W183mm x D189mm x H397mm以上が確保できること</p> <p>【照明環境】 カードリーダー部に直射日光があたらないこと</p>
--	---	---	---	---

画面サイズ

5インチ	7インチ	8インチ	5インチ	10インチ相当
------	------	------	------	---------

なりすまし防止

のぞき見防止

〇

〇

〇

〇

対応OS

Windows10 IoT Enterprise 2019 LTSC 64bit

詳細仕様

下の表「製品情報ページ」からアクセスしてください。